

# 総説

# 総 説

奈良県の沿革	1
県政 奈良県政年表	6
市町村変遷表	8
行政区画	12
位置、面積	12
地形	13
気象	14
人口	15
産業	17
農業	17
林業	17
工業	18
商業	20
文化・観光	21
主要山岳一覧表	23
主要河川一覧表	24

## 奈良県の沿革

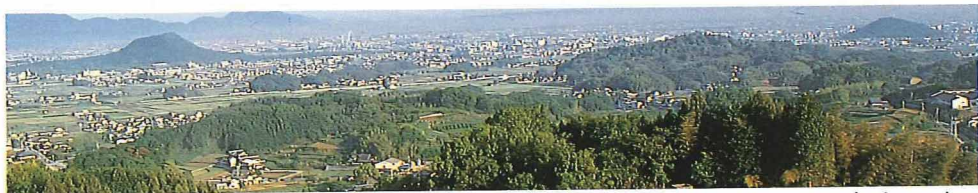
### 大和は国のまほろば

紀元前3世紀頃、日本列島に稲作がもたらされると奈良盆地は豊かな米作地帯となりました。大陸の高度の文化はこの地に開花し、大和の地は我が国の政治・文化の中心地として中国にならい、都城藤原京（694年）・平城京（710年）が造られ、飛鳥・白鳳・天平の輝かしい文化が醸成されました。

その後、都が平安京に移ったため、一時平城の都はさびれたが、やがて社寺中心に甦り、鎌倉時代には、大和の国は興福寺・春日大社の荘園で占められるまでになりました。

戦国時代、この大和の地も戦乱が絶えることなく、幾多の興亡が繰り返されたが、その後織田信長の庇護のもとにあった筒井氏が大和を統一しました。

江戸時代には、綿花・菜種・小豆などの商品作物や、三輪そうめん・吉野葛・宇陀紙・奈良晒・大和緋・吉野杉などの特産品が、隣接する大消費地大坂・京都に運ばれ大和に富をもたらしました。



大和三山

## 明治20年に現在の奈良県が誕生

明治維新を迎えると、慶応4年1月に大和鎮台が設置され、以後、行政区画の改廃が繰り返されたが、明治4年には大和国を統一した奈良県が成立しました。しかし、明治9年堺県に合併、さらに明治14年には大阪府に合併とめまぐるしく変化し、その中で、大和の人々は奈良県の再設置を粘り強く求めつづけました。ついに、明治20年11月4日、奈良県の誕生を迎えることができました。明治21年1月9日には第1回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれています。

明治22年4月1日の町村制施行当時、10町142村2組合村で、人口は50万人ほどでした。その後県勢の発展にともない昭和30年前後に、市町村合併が促進され、現在は、10市20町17村で、人口は約139万人となっています。



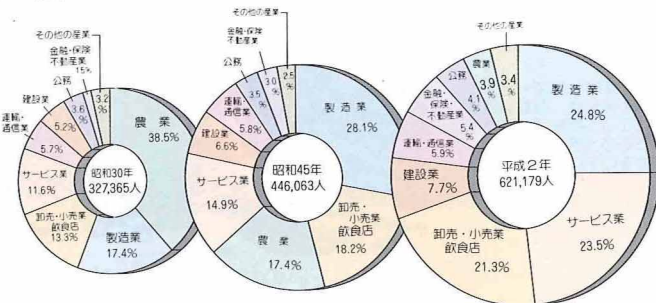
新旧県庁舎(昭和40年)

## 環境との調和を図りながら

奈良県は、気候・風土に恵まれているものの、海が無く河川に乏しいという条件もあって、明治以降も農業・林業が産業の中心でしたが、昭和38年から始まった奈良県新総合開発計画をはじめとする県勢の振興計画による産業基盤の整備や公害のない工場誘致等により急速に工業化・都市化が進みました。人口も昭和40年代始めから50年代中ごろにかけて、大都市大阪等のベッドタウンとして急増してきましたが最近はやや伸び率が鈍化しています。しかし、依然として、人口増加率は全国でも上位にあります。大和平野地域に人口が集中する一方、その他の地域では過疎化、高齢化が著しくみられるようになりました。そこで、本県としては、地域の特性を生かし、調和と均衡のとれた県勢の発展を目指して昭和59年に「奈良県長期基本構想」を策定しました。

近年、本県の子な事業としては昭和59年わかさ国体、62年置県100年、63年88ならシルクロード博開催等があります。

### 産業別就業者の推移





そしていま21世紀にむけて

奈良県では世界に開かれた文化観光・平和県として、奈良県長期基本構想に基づいて各事業を積極的に行っています。特に京阪奈丘陵での関西文化学術研究都市の建設と、五條市でのテクノパーク・なら工業団地建設の両拠点づくり、リニア中央新幹線の建設促進、京奈和自動車道等の幹線道路の整備、シルクロードの研究拠点づくり等、21世紀に羽ばたく奈良県の基盤づくりに取り組んでいます。そして、生きがいと誇りを持ち長寿社会を楽しめるような環境づくりや地域の魅力の発掘に努め、豊かで「遊<sup>ゆう</sup>」のある奈良県を目指しています。



「いこいの村大和高原」ゆう遊ランド

# 21世紀をひらく、奈良の主要プロジェクト

奈良県では、県土を大和平野地域、大和高原地域、五條吉野地域の3エリアに分け、「国際性豊かな文化観光・平和県」を目標に、21世紀に向けてのプロジェクトが、いま着々と進められています。

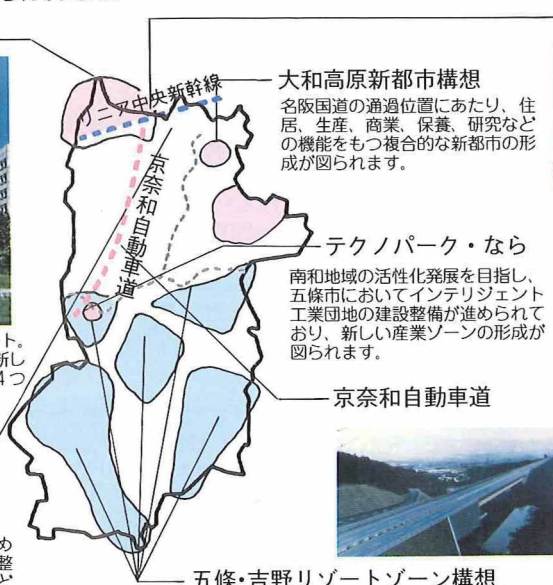
## 関西文化学術研究都市



京阪奈丘陵で進行中の大型国家プロジェクト。高度な文化・学術・研究機能の中核となる新しい都市づくりを目指して、奈良県域には4つの文化学術研究地区が整備されます。

## JR奈良駅周辺 都市拠点総合 整備事業

奈良市都心地域の活性化を図るための整備事業。都市基盤を総合的に整備し、商業・業務、情報・文化などの新しい時代に対応できる多機能な都市拠点の形成が図られます。



## 大和高原新都市構想

名阪国道の通過位置にあたり、住居、生産、商業、保養、研究などの機能をもつ複合的な新都市の形成が図られます。

## テクノパーク・なら

南和地域の活性化発展を目指し、五條市においてインテリジェント工業団地の建設整備が進められており、新しい産業ゾーンの形成が図られます。

## 京奈和自動車道



## 五條・吉野リゾートゾーン構想

五條・吉野地域の持つ自然環境や歴史資産を活用した独自性の高いリゾートゾーン形成を図る構想。

## リニア中央新幹線



東海道新幹線のバイパスとして、増大する大都市圏間の旅客輸送に対処し、沿線地方都市の発展等国土の均等ある発展に貢献するためのもので、奈良県では、奈良市北部地域に用地を確保し、駅設置を要望している。

京都一奈良一和歌山を結ぶ高規格幹線道路。奈良県を南北に結ぶ自動車専用道路として計画され、すでにこの一部となる五條道路の建設が進められています。奈良県の背骨となる重要な道路で早期の整備が望まれています。

# 県 政

## 奈良県政年表

西 暦	年 月 日	事 項
1868年	慶応4年1月21日	大和鎮台が設置され、のち2月1日大和国鎮撫総督府と改称した。
	5月19日	奈良県を設置。(知県事に春日仲襄)
	7月29日	奈良県は奈良府と改称した。
	明治元年9月8日	明治と改元。
1869年	2年6月17 ～24日	各藩は版籍を奉還し、それぞれ旧藩を県とし知藩事を置く。(郡山県——柳沢氏15.1万石、高取県——植村氏2.5万石、柳本県・芝村県——織田氏各1万石、橿羅県——永井氏1万石、小泉県——片桐氏1.1万石、柳生県——柳生氏1万石、田原本県——平野氏1万石の8県)
	7月17日	奈良府は奈良県と改称した。
1870年	3年2月27日	奈良県・堺県の1部を合わせ五條県を設置した。
1871年	4年7月14日	廃藩置県により、大和国内に奈良・五條・郡山・高取・柳本・芝村・橿羅・小泉・柳生・田原本・和歌山・津・久居・壬生・大多喜の15県が成立した。
	11月22日	大和国一円を管轄する奈良県を設置、県内を添上・添下・平群・山辺・式上・式下・十市・宇陀・高市・広瀬・葛下・葛上・忍海・宇智・吉野の15郡に分ち統轄した。(県令に四条隆平) このとき本県の戸数は95,866戸、人口418,326人となっている。
1876年	9年4月18日	堺県と合併される。
1881年	14年2月7日	堺県が大坂府に合併される。大和15郡を4連合郡役所で所管。
	11月29日	大和国一覽表によれば15郡261町1333村で戸数99,005戸、人口476,709人となっている。
1887年	20年11月4日	大坂府から分離して奈良県が再設置された。
	12月1日	奈良県開庁。(知事に税所篤)
	27日	第1回奈良県議会議員35名の当選告示。
1888年	21年1月9日	第1回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれた。
1889年	22年4月1日	町村制が施行された。10町142村2組合村。



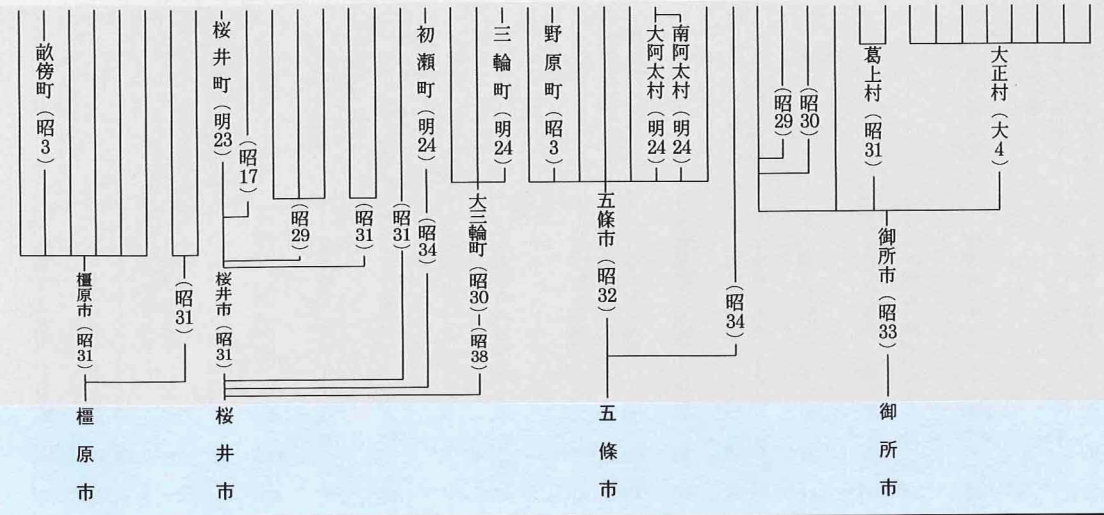
西 暦	年 月 日	事 項
1895年	明治28年12月15日	県庁舎が落成し移庁式を奉行する。
1897年	30年8月1日	郡制が実施され、添上、山辺、宇陀、高市、宇智、吉野の各郡の他、添下・平群を合わせて生駒郡、式上・式下・十市を合わせて磯城郡、広瀬・葛下を合わせて北葛城郡、葛上・忍海を合わせて南葛城郡とし、以上10郡となり各郡に郡役所が置かれた。
1898年	31年2月1日	市制の施行で添上郡奈良町が県内初めての市（奈良市）となる。
1926年	大正15年7月1日	郡役所廃止。
1942年	昭和17年7月1日	県内7ヶ所に地方事務所設置。
1947年	22年4月15日	初の公選知事選挙が行われた。
1955年	30年9月17日	地方事務所を廃止。
1956年	31年10月	吉野熊野特定地域総合開発計画が閣議決定された。
1963年	38年11月	奈良県新総合開発計画を策定した。
1965年	40年3月18日	新県庁舎竣工。
1968年	43年3月	第2次奈良県新総合開発計画を策定した。
1973年	48年3月	奈良県長期基本計画（第3次）を策定した。
1978年	53年3月	奈良県長期基本計画（第3次）〔修正計画〕を策定した。
1984年	59年4月	奈良県長期基本構想を策定した。
	9・10月	わかくさ国体を開催した。
1987年	62年11月4日	奈良県置県100年を迎えた。
	12月1日	第200回奈良県議会を開催した。
1988年	63年3月28日	関西文化学術研究都市（奈良県域）の建設に関する計画が内閣総理大臣の承認を得た。
	4～10月	なら・シルクロード博を開催した。
1991年	平成3年10月1日	香芝町の市制施行により、10市20町17村となる。

# 市 町 村 変 遷 表

明治 22 年	奈良町	佐保村	都安寺村	大東市	平城市	辰市	五ヶ谷村	帯解村	明治村 (添上郡)	富雄村	伏見村	田原村	柳生村	大柳村	東里村 (添上郡)	狭川村	高田村	土庫塚村	松塚村	浮孔村	磐園村	陵西村	天満町	郡山町	筒井村	平道村	矢田村	平端村	本多村	片桐村	櫛本村	二階堂村	朝和村	山辺村	福住村	柳本村	
変遷	奈良市(明31)	(大12)	(昭15)	(昭26)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭28)	(昭25)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)	(昭2)
現在	奈良市																																				

(明治22年町村制施行以後)

耳	白	鴨	八	今	真	新	金	桜	城	多	安	朝	香	大	上	初	織	纏	三	五	野	宇	阪	北	阿	牧	南	御	秋	披	葛	吐	葛	櫛	櫛	三	鎌	東	竹	西	小					
成	櫃	公	木	井	菅	澤	橋	井	島	武	倍	倉	久	福	之	瀬	田	向	輪	條	原	智	合	宇	太	野	字	所	津	上	田	城	羅	原	室	田	松	松	林							
村	村	村	町	町	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	町	村	村	村	村	村	村	村	町	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村



# 市町村変遷表 (つづき)

北	南	北	五	二	下	志	月	針	都	東	波	豊	三	龍	法	富	安	川	三	田	平	川	都	多	松	政	神	宇	宇	榛	伊	内	室	三	東	曾	御	高	越	船			
生	生	生	位	上	田	都	瀬	ヶ	介	山	多	原	明	隆	郷	郷	塔	西	宅	原	野	東	山	始	戸	賀	賀	原	那	佐	本	本	里	爾	杖	取	智	倉					
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	町	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
生駒町 (大10)	生駒町 (昭30)	生駒町 (昭32)	香芝町 (昭31)	香芝町 (昭31)	香芝町 (昭31)	香芝町 (昭31)	月ヶ瀬村 (昭43)	都祁村 (昭30)	山添村 (昭31)	山添村 (昭31)	平群町 (昭46)	三郷町 (昭41)	龍田町 (明24)	斑鳩町 (昭22)	川西町 (昭50)	安堵町 (昭61)	三宅町 (昭49)	三宅町 (昭49)	三宅町 (昭49)	三宅町 (昭49)	田原本町 (昭31)	田原本町 (昭31)	大字陀町 (昭17)	大字陀町 (昭17)	大字陀町 (昭17)	大字陀町 (昭17)	字太町 (昭10)	上竜門村 (昭10)	菟田野町 (昭31)	菟田野町 (昭31)	菟田野町 (昭31)	榛原町 (明26)	榛原町 (明26)	榛原町 (明26)	室生村 (昭30)	室生村 (昭30)	室生村 (昭30)	高取町 (明24)	高取町 (明24)	高取町 (明24)	高取町 (明24)		
生駒市 (昭46)	生駒市 (昭46)	生駒市 (昭46)	香芝市 (平3)	香芝市 (平3)	香芝市 (平3)	香芝市 (平3)	月ヶ瀬村 (昭43)	都祁村 (昭30)	山添村 (昭31)	山添村 (昭31)	平群町 (昭46)	三郷町 (昭41)	斑鳩町 (昭22)	川西町 (昭50)	安堵町 (昭61)	三宅町 (昭49)	三宅町 (昭49)	三宅町 (昭49)	三宅町 (昭49)	田原本町 (昭31)	田原本町 (昭31)	大字陀町 (昭17)	大字陀町 (昭17)	大字陀町 (昭17)	大字陀町 (昭17)	菟田野町 (昭31)	菟田野町 (昭31)	菟田野町 (昭31)	榛原町 (明26)	榛原町 (明26)	榛原町 (明26)	室生村 (昭30)	室生村 (昭30)	室生村 (昭30)	高取町 (昭29)	高取町 (昭29)	高取町 (昭29)	高取町 (昭29)					
生駒市	生駒市	生駒市	香芝市	香芝市	香芝市	香芝市	月ヶ瀬村	都祁村	山添村	山添村	平群町	三郷町	斑鳩町	川西町	安堵町	三宅町	三宅町	三宅町	三宅町	田原本町	田原本町	大字陀町	大字陀町	大字陀町	大字陀町	菟田野町	菟田野町	菟田野町	榛原町	榛原町	榛原町	室生村	室生村	室生村	曾爾村	御杖村	高取町	高取町	高取町				

